

輸出は電気銅増加、スクラップは減少 スクラップ需給は低品位ものが飽和状態へ

橋本 橋本健一郎氏リポート①
アルミ

七月前半は、チリ鉱山をめぐる供給不安や米雇用統計の内容を好感するなどのプラス材料もあったが、米国が五〇〇億ドル(約五・五兆円)規模の中国製品に対する追加関税発動に向け動き出した。これに対し、中国も同規模の米国製品に対する報復関税を表明したことを嫌気しLME銅相場はDOWN、七月十五日時点で六、一六六ドル(セツル)と月初価格より四二九ドル安の前半締めとなった。

後半は、BHP傘下のチリ・エスコンディタ銅山での賃金交渉をめぐってスト突入の恐れが高まっていること、欧州は貿易問題でアメリカとの貿易戦争はやめて、落としどころを探る方向にいくなどプラス材料もあったが、中国商務部が「米国の貿易に関する脅し、いじめは理解できず報復措置を取らざるを得ない」との発表、トランプ米大統領も七月に公表していた二、〇〇〇億ドル分の中国製品を対象とした対中制裁の関税率を当初の一〇%から二五%に引き上げるよう米通商代表部(USTR)に指示するなど貿易戦争の長期化を懸念しLME銅相場は下落、八月三日現在、後半スタート価格から八〇ドルDOWNの六、〇六三ドル。銅建値七五万円のスタート。

◆月間のドル/円レート (TTS)

一一・〇八八→一一・〇三三

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比四・六%増の七二万五、二二六台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比一・二%増の二八万一、八七六台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比七・二%減の八万一、二七五戸であった。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が三〇・七%増の五万三、六二七t、スクラップが一五・八%減の二万六、九六二t。

輸入

輸入は電気銅が前年比三三・六%減の九九五t、スクラップ一七・五%増の一萬二、一〇六t。

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比三・三%減の七万〇、四三四t。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比三・五%増の五万九、七〇〇tであった。

■概況

【自動車生産】

五月の四輪車生産台数は七二万五、二一六台で前年同月比四・六%増となり、三カ月連続増加。

輸出は四一万二、一五六台で前年同月比三・一%減。

【自動車販売】

七月の国内自動車販売台数(軽除く)は二八万一、八七六台で前年比一・二%増と、三カ月ぶり増加。

このうち、乗用車一・二%増、貨物〇・二%減、バス三三%減。

【住宅着工数】

平成三十年六月の住宅着工戸数は八万一、二七五戸で、前年同月比七・一%減となった。また、季節調整済年率換算値では九一・五万戸(前月比八・二%減)となった。

・住宅着工の動向については、前年同月比で三カ月ぶりの減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに減となった。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比三・三%減の七万〇、四三四tと二カ月ぶり減少。

このうち、内需五万八、七〇七tで二・三%減と三カ月ぶりマイナス、輸出二万一、七二七tで七・七%減と二カ月ぶりマイナス。

品種別では、銅条二万三、一三三tで二・四%減と三カ月ぶりマイナス、黄銅棒一万五、七七八tで八・五%減と二カ月ぶりマイナス。(六面へ続く)

(四面より続)

【電線出荷】

前年比三・五%増の五万九、七〇〇t。

このうち、国内二・五%増、輸出が四三%増。

出荷部門別では、通信九・一%減、電力三・

九%増、電気機械一・三%減、自動車三・六

%減、建設・電販五・八%増、その他内需四・

八%増。

【輸出】電気銅輸出が三〇・七%増の五万三、六二七t。銅スクラップは一五・八%減の二万六、九六二t。

【輸入】輸入は電気銅が三三・六%減の九九五t。スクラップは一七・五%増の一万二、一〇六t。

【見通し】

・自動車は生産が四・六%増。国内販売台数が前年比一・二%増。生産が三カ月連続プラス、販売が三カ月ぶりプラス。

販売増が継続するかどうか今後注目。

・住宅着工の動向については、前年同月比で七・一%減と三カ月ぶり大幅マイナス。大幅減が続くのか今後の動向に注目。

・伸銅品は二カ月ぶり減少の前年比三・三%減。

需要の多い銅条三カ月ぶりマイナス、黄銅棒は二カ月ぶりマイナス、輸出二カ月ぶりマイナス。

・自動車生産が三カ月連続プラスと改善、伸銅品生産も改善するか今後の動向に注視。

・電線は前年比三・五%増の五万九、七〇〇t。輸出が四三%増。

需要の多い自動車、建設・電販がそれぞれ三・六%減、五・八%増。建設・電販が三カ月連続プラスに。

・銅輸出は、地金は円安から増加、スクラップは内需用途から減少。

・銅輸入は、大幅円安から地金は減少、内需用途からスクラップは増加。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は前月半ばごろの建値八四万円から七三万円まで下落し、塩漬け漬け状態。需要面に関しては足元の生産状況が比較的良好。

品位の良いスクラップは安値で拾えれば買い気があるが、品位の低いスクラップに関しては使用に手間がかかるため購買意欲は薄く飽和状態になるのではないかと。

【価格・為替予想】

今月は米中貿易戦争と鉱山ストの動向に左右される。

米貿易戦争に関しては、中国商務部が「米国の貿易に関する脅し、いじめは理解できず報復措置を取らざるを得ない」との発表、トランプ米大統領も七月に公表していた二、〇

〇億ドル分の、製品を対象とした対中制裁の関税率を当分の一〇%から二五%に引き上げるよう米通商代表部(USTR)に指示するなど、貿易戦争の長期化の様相。

鉱山ストに関しては、エスコンデューダ山の労組が投票でスト突入を承認したことから長期化の様相。

これらを踏まえた八月の銅価格は、米貿易戦争で両国間で歩み寄りが見られ、エスコンデューダ鉱山で昨年同様労使交渉が決裂した場合、六、五〇〇ドル付近。

両条件が揃わなかった場合、現状から六、〇〇〇ドル付近まで下落するとの予想。

為替は、前記材料からドル円値は一一〇円〜一二二円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては七〇〇〜七七〇円程度と予測している。

株式ファンドから資金流出

強気相場の持続性に警戒感

七月三十日からの一週間に世界の株式ファンドから二〇億ドルが流出し、債券ファンドへ二億ドルが流れ込んだ。目立ったのは米大型株離れで、強気相場の持続性に対する投資家の警戒感の高まりがうかがえる。ただ、ハイテク株は一四週連続の資金流入を記録した。バンク・オブ・アメリカ・メリルリンチ(BAML)のストラテジストチームが、EPRFのデータを引用して明らかにした。

足元ではフェイスブックとツイッターの株価が大きく下がり、主力ハイテク株がどこまで逆境で踏ん張れるか不安が生じたものの、このセクターには約九億ドルが流入した。

一方米大型株からは一〇億ドル、米成長株から二億ドルが流出。投資家は米小型株やバリュースト株に目を転じており、それぞれ一億ドル程度が流入した。

このほか資金流入が見られたセクターはヘルスケア、消費関連、不動産で、不安定な相場展開にさらされた投資家守りの姿勢を取っている様子が分かる。エネルギーや金融からは資金が逃げ出した。

地域別では、欧州株が二週連続の資金流出。米国株と日本株も八億ドルと九億ドルの資金流出となった半面、新興国株は過去一週間で初めて資金が流入した。

リスク資産では高利回り債には二億ドルが流れ込んだ。